

ART GALLERY

現代アートシーンにおいて卓越した表現力をもつ4名のアーティストと、
建築材料やサービスに想いをもつ4社が重なり合うARTを展示



YOSHIYUKI OKUYAMA × MEAS

1991年東京生まれ。2009年から写真作品の制作を開始し、2011年に第34回写真新世紀優秀賞を受賞してデビュー。以降、具象と抽象といった相反する要素の混在や矛盾などを主なテーマに作品制作を続けている。2016年には『BACON ICE CREAM』(Parco Publishing刊、2015年)で第47回講談社出版文化賞写真賞を受賞。主な写真集に、『Girl』(PLANCTON刊、2012年)、『君の住む街』(SPACE SHOWER BOOKS刊、2017年)、『As the Call, So the Echo』(赤々舎刊、2017年)、『POCARI SWEAT』(青幻舎刊、2018年)、『Los Angeles / San Francisco』(Union publishing刊、2018年)、『The Good Side』(Editions Bessard刊、2020年)、『flowers』(赤々舎刊、2021年)、『台湾版 : BACON ICE CREAM』(原點出版刊、2021年)、『Ton! Tan! Pan! Don!』(bookshop M刊、2021年)、『BEST BEFORE』(青幻舎刊、2022年)、『windows』(赤々舎刊、2023年)など。主な個展に、「Girl」Raum1F(東京、2012年)、「BACON ICE CREAM」パルコミュージアム(東京、2016年)、「THE NEW STORY」POST(東京、2016年)、「As the Call, So the Echo」Gallery916(東京、2017年)、「君の住む街」表参道ヒルズ スペースオー(東京、2017年)、「白い光」キヤノンギャラリーS(東京、2019年)、「windows」amanaTIGP(東京、2023年)など。

MEASの想い | 住まいに愛着をもつきっかけは暮らしを想うこと



ICHI TASHIRO × 旭化成建材

1984年生まれ、愛媛県出身。18歳のときにニューヨークに移住し、独学で美術を学んだIchi Tashiroは、路上で作品を売ることからキャリアをスタートさせました。5年間ニューヨークのアートシーンで活躍した後、香港に拠点を移し、9年間アジアとヨーロッパで積極的に展覧会とアートフェアで出展し存在感を確立し、現在は東京、パリ、と香港に拠点を移して活動しています。

Tashiroの活動は、彫刻、マーク・メイキング、イメージ・メイキングを多様に組み合わせています。彼の最近の作品シリーズは、厚い木製パネルに深い線を彫り、エッチングするプロセスから始まります。その後、紙、新聞、本、雑誌、顔料、インク、マーカー、様々な素材を使い、抽象と超現実主義を横断する彫刻的なコラージュを制作します。一方、彼の平面的なコラージュ作品は、想像力を刺激する幻想的な物語であることが多く、周囲を意識させる力強い彫刻作品の身体性や存在感とは対照的でもあります。

Tashiroの作品は、物質とイメージによる表現のさまざまな可能性を模索しながら、進化し続けていますが、セレンディピティと可能性は、彼のキャリア全体を通して一貫したテーマであり続けています。この2つのシリーズを通して、Tashiroは私たちの感情を抑圧しようとする硬直した社会構造に反旗を翻し、創造性と情熱という厄介で筆舌に尽くしがたい人間の本質を伝える作品を作り出そうとしています。

Tashiroの作品は、香港、パリ、ニューヨーク、ロサンゼルス、アムステルダム、ベルギー、デンマーク、シンガポール、東京などで個展やグループ展で出展されています。また、アートバーゼル香港やASIA Now Parisなどのアートフェアにも参加しています。

旭化成建材の想い | 素材がもつ潜在的な力を今、伝えたい



edenworks × 住友ゴム工業

篠崎恵美が主宰する花や植物を扱うクリエイティブスタジオ。「花を棄てずに未来に繋げる」を理念に掲げ、独自の感性で花の可能性を引き出し、花のロスを最大限に無くすクリエイションをする。店内装飾からウィンドウ装花、雑誌、広告、CM、MVなど、花にまつわる創作を広く行っている。週末限定のフラワーショップ「edenworks bedroom」、ドライフラワーショップ「EW.Pharmacy」、植物のコンセプトショップ「conservatory by edenworks」、花と人を繋ぐフラワーショップ「ew.note」など様々なショップを展開している。また、2017年にイタリア ミラノで紙の花プロジェクト「PAPER EDEN」を発表。ブランドとのコラボレーションやインスタレーションなど、アーティストとしても国内外で活動中。

住友ゴム工業の想い | 暮らしを守ることそれが私たちの出発点



NOMA t.d. × 田島ルーフィング

2005年、野口真彩子と佐々木拓真によってスタート。ハンドドローイングを活かした個性的なテキスタイルと日本を始め海外で出会った伝統技術に新しい視点を加え、コンテンポラリーなコレクションを展開。ブランドのデザインスタジオでは、テキスタイルから派生した家具やオブジェなどのプロダクト製作も行う。また2人のキュレーションによる写真家やペインターなどの展覧会を数多く行い、アートブックの出版も手がける。

ロンドン「Chelsea College of Arts テキスタイルデザインコース」在籍中より、テキスタイルデザイナーとして活動していた野口真彩子とセレクトショップのディレクターやバイヤーを経験した佐々木拓真がデザイナーデュオとしてブランドをスタート。野口は作家としてもギャラリーでの展覧会を定期的に行う。著作は作品集「Between Line And Pattern」(2017年)。

田島ルーフィングの想い | みえないものへの品質にこだわり続ける